

川崎市議会

宮原氏 原子力空母撤退求めよ

# 戦略港湾政策脱却を

また、市内公園の汚泥から高い放射線量が検出された問題を取り上げ、継続測定を要求。地震による原子力

阿部孝夫市長は、線量調査は継続すると答弁。高線量が示された汚泥の運搬処理を開始したと説明しました。GWをめぐる対応については「日本の国防問題であり、第一義的に示しました。」

新政権について市長の見解を求めました。熊谷市長は「マニフェストの理念に及ばない範囲の見直しは想定され

## 保育園・幼稚園など東部114カ所 放射線測定結果を公表

(表1) 保育園、幼稚園、特別支援学校周辺の主な測定結果

|             | 測定値  | 備考               |
|-------------|------|------------------|
| 江戸川区南部のA園   | 0.34 | 出入り口側溝のフタ上       |
| 江戸川区中央部のB園  | 0.57 | 園庭内の雨水升の内部       |
| 江戸川区北部のC園   | 0.66 | 出入り口側溝の砂を運んだ植え込み |
| 葛飾区東部のD園    | 1.35 | 外階段の最下部の人工芝      |
| 葛飾区北部のE園    | 1.08 | 外階段の最下部近くの植え込み   |
| 足立特別支援学校実習棟 | 1.25 | 北側道路の側溝          |
| 葛飾ろう学校      | 0.66 | 通用門横の遊歩道         |
| 水元特別支援学校    | 1.47 | 北側出入り口の側溝上       |

測定値の単位は毎時マイクロシーベルト。地上5センチ地点の値。



室内で放射線量を測定する(右から)坂巻、清水、かち氏ら＝8月25日、葛飾区のD園で

能対策を強化するよう、石原慎太郎知事と大原正行教育長あてに申し入れました。調査は8月25日～9月3日に、都議会が党区議会、日本科学者会、防災書問題研究委員の坂巻幸雄氏らの協力をえて実施。保育園、幼稚園6園の敷地と都立特別支援学校3校の周辺のホットスポットといわれる側溝、すべり台下、人工芝、駐車場などを測定しました。

地上5センチ地点で、保育園、幼稚園内は、

(表2) 除染前後の放射線量の変化

| 場所     | 備考         | 測定値  | 減少率 |
|--------|------------|------|-----|
| 江戸川区A園 | 出入り口側溝フタ上部 | 0.34 | 38% |
|        | // 除染後     | 0.21 |     |
| 江戸川区B園 | すべり台降下部    | 0.41 | 59% |
|        | // 除染後     | 0.17 |     |
| 葛飾区E園  | すべり台下砂場    | 0.33 | 52% |
|        | // 除染後     | 0.16 |     |

測定値の単位は、毎時マイクロシーベルト。地上5センチ地点の値。

毎時0.28～1.35ミリシーベルト、園児が利用する公園は0.26～0.42ミリシーベルト、都立特別支援学校隣接地では0.33～1.47ミリシーベルトなど、比較的高い値がでました(表1)。

党都議団は3園のホットスポット4カ所ですべて専門家の助言を受けて緊急除染を実施したところ、線量が当初より、38～59%減少しました(表2)。

記者会見で、清水ひで子都議は「子どもたちの(放射性物質の)接触、吸入を極力防ぎ、除去したいという思いで実施した」と説明しました。党都議団は都に對し、▽区市町村と協力し、保育園、幼稚園などの測定を緊急に行い、除染対策を進めるに財政・技術支援をする▽全都の学校や通学路、公園、都立公園などで詳細な測定、必要な除染をする▽科学者や専門家などの知恵と力を結集し、放射能汚染の実態を調査し、除染を推進するため都放射能調査・除染センター(仮称)を設置するなどを申し入れました。

党都議団が都に要求

# 除染急いで

日本共産党東京都議団は15日、福島原発事故の影響で放射線量の高い、東部3区(足立、葛飾、江戸川)の保育園、幼稚園の敷地内、

都立特別支援学校隣接地のホットスポットと目される側溝、遊具下など114カ所を測定した結果を発表しました。同日、測定結果に基づき、「子どもの安全第一の立場」で放射